

数値の評価について ① ～式変形から多項式近似まで～

吉田 信夫

大学への数学 10年1月号 掲載

東大、京大などの入試問題では、何らかの関係式を利用して数値を評価するものがある(「概算」でなく、「評価」)。特に2009年の東大(理科)において顕著であった。

ここで、数値評価の手段を大雑把に分類すると、

I) 式変形などの工夫(根性?)による評価

II) 多項式による評価

III) その数値に収束する数列による評価

である。東大の問題を通じて、これらを確認しよう。

**問題** 1. (1) 実数  $x$  が  $-1 < x < 1$ ,  $x \neq 0$  をみたすとき、次の不等式を示せ。

$$(1-x)^{\frac{1}{x}} < (1+x)^{\frac{1}{x}}$$

(2) 次の不等式を示せ。

$$0.9999^{101} < 0.99 < 0.9999^{100}$$

**問題** 2.  $e^\pi > 21$  を示せ。ただし、 $\pi = 3.14\dots\dots$  は円周率、 $e = 2.71\dots\dots$  は自然対数の底である。

**問題** 3.  $\sin \alpha = \frac{1}{1000}$ ,  $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$  のとき、

$$\sin \frac{5\alpha}{2} < \frac{3\sqrt{3}}{2000} \text{ が成り立つことを示せ。}$$

**問題** 4. 円周率が3.05より大きいことを証明せよ。

**問題** 1, 4 は順に、2009年第5問、2003年第6問である。**問題** 2, 3 はそれぞれ1999年第6問、2009年第6問の解答過程で現れる評価である。

**問題** 1. (1) は(関数)<sup>(関数)</sup>なので、 $\log$ をとれば示せる。(2) では、(1) の  $x$  に何を代入するかを考える。

**解** (1)  $-1 < x < 1$  より、示すべき式対数の対数をとることができるので、

$$\left(1 - \frac{1}{x}\right) \log(1-x) < \frac{1}{x} \log(1+x)$$

を示せば良い。 $-1 < x < 1$  において

$$f(x) = \log(1+x) + (1-x)\log(1-x)$$

とおくと、示すべき式は、両辺に  $x$  をかけることで、

$$f(x) > 0 \quad (x > 0), \quad f(x) < 0 \quad (x < 0)$$

となる。ゆえに、これを示せば良い。

$$\begin{aligned} f'(x) &= \frac{1}{1+x} + (-1)\log(1-x) + (1-x)\frac{-1}{1-x} \\ &= \frac{1}{1+x} - \log(1-x) - 1, \end{aligned}$$

$$f''(x) = -\frac{1}{(1+x)^2} - \frac{-1}{1-x} = \frac{x(x+3)}{(1-x)(1+x)^2}$$

$x$	-1	...	0	...	1
$f''(x)$	/		-	0	+
$f'(x)$	/		\	0	/

$$\therefore f'(x) \geq 0 \quad (-1 < x < 1)$$

より、 $f(x)$  は単調増加する。 $f(0) = 0$  より、

$$f(x) > 0 \quad (x > 0), \quad f(x) < 0 \quad (x < 0)$$

が成り立つ。以上で示された。

(2) (1) において、 $x = 0.01 = \frac{1}{100}$  としたら、

$$\left(1 - \frac{1}{100}\right)^{1-100} < \left(1 + \frac{1}{100}\right)^{100}$$

となり、両辺に  $\left(1 - \frac{1}{100}\right)^{100}$  をかけると、

$$\left(1 - \frac{1}{100}\right)^{1-100} \left(1 - \frac{1}{100}\right)^{100} < \left(1 + \frac{1}{100}\right)^{100} \left(1 - \frac{1}{100}\right)^{100}$$

$$\Leftrightarrow 1 - \frac{1}{100} < \left(1 - \frac{1}{10000}\right)^{100}$$

$$\therefore 0.99 < 0.9999^{100}$$

となり、右半分は示された。

(1) において、 $x = -0.01 = -\frac{1}{100}$  としたら、

$$\left(1 + \frac{1}{100}\right)^{1+100} < \left(1 - \frac{1}{100}\right)^{-100}$$

となり、両辺に  $\left(1 - \frac{1}{100}\right)^{101}$  をかけると、

$$\left(1 + \frac{1}{100}\right)^{1+100} \left(1 - \frac{1}{100}\right)^{101} < \left(1 - \frac{1}{100}\right)^{-100} \left(1 - \frac{1}{100}\right)^{101}$$

$$\Leftrightarrow \left(1 - \frac{1}{10000}\right)^{101} < 1 - \frac{1}{100}$$

$$\therefore 0.9999^{101} < 0.99$$

となり、左半分も示された。

\*

\*

集中講義～数値の評価～

“Ⅰ)”に必要なものは「想像力」「逆算する力」と「代入する決断力」であろうか。同様の形式は…

⇒注 この作業を限りなく繰り返すと、 $\sqrt{111}$  に収束する。これが“Ⅲ)”の考え方である。

**例題** (1) 2つの正の実数  $a, b$  ( $a < b$ ) に対し、次の不等式を示せ。

$$\frac{2ab}{a+b} < \sqrt{ab} < \frac{a+b}{2}$$

(2) 次の不等式を示せ。

(i)  $\frac{1221}{116} < \sqrt{111} < \frac{116}{11}$

(ii)  $\frac{283272}{26887} < \sqrt{111} < \frac{26887}{2552}$

(2008年奈良女子大(一部改題))

**解** (1)  $a > 0, b > 0, a < b$  より、

$$\frac{a+b}{2} - \sqrt{ab} = \frac{(\sqrt{b} - \sqrt{a})^2}{2} > 0$$

$$\therefore \frac{a+b}{2} > \sqrt{ab}$$

であり、右半分は示された。 $a, b$  を  $\frac{1}{b}, \frac{1}{a}$  に変えると、

$$\frac{\frac{1}{b} + \frac{1}{a}}{2} > \sqrt{\frac{1}{b} \cdot \frac{1}{a}} \Leftrightarrow \frac{a+b}{2ab} > \frac{1}{\sqrt{ab}}$$

$$\therefore \frac{2ab}{a+b} < \sqrt{ab}$$

であり、左半分も示された。

(2)  $ab = 111, a + b = \frac{232}{11}$  ( $a < b$ )

となる  $a, b$  は、解と係数の関係から逆算して、

$$x^2 - \frac{232}{11}x + 111 = (x - 11)\left(x - \frac{111}{11}\right) = 0$$

の2解であるから、

$$a = \frac{111}{11}, b = 11$$

である。これを(1)に代入すると、

$$\frac{2 \cdot \frac{111}{11} \cdot 11}{\frac{111}{11} + 11} < \sqrt{\frac{111}{11} \cdot 11} < \frac{\frac{111}{11} + 11}{2}$$

$$\therefore \frac{1221}{116} < \sqrt{111} < \frac{116}{11}$$

となる。

(3) (1) に  $a = \frac{1221}{116}, b = \frac{116}{11}$  を代入すると、

$$\frac{2 \cdot \frac{1221}{116} \cdot \frac{116}{11}}{\frac{1221}{116} + \frac{116}{11}} < \sqrt{\frac{1221}{116} \cdot \frac{116}{11}} < \frac{\frac{1221}{116} + \frac{116}{11}}{2}$$

$$\therefore \frac{283272}{26887} < \sqrt{111} < \frac{26887}{2552}$$

となる。

**問題** 2. まず“Ⅰ)：計算による証明”を2つ与える。

**解** 1  $e > 2.7 = \frac{3^3}{10}, \pi > 3.125 = \frac{25}{8}$

$$\therefore e^\pi > \left(\frac{3^3}{10}\right)^{\frac{25}{8}}$$

より、 $e^\pi > 21$  を示すには、

$$\left(\frac{3^3}{10}\right)^{\frac{25}{8}} > 21 \Leftrightarrow 3^{75} > 21^8 \cdot 10^{25}$$

つまり、

$$3^{67} > 7^8 \cdot 10^{25} \dots\dots (*)$$

を示せば良い。さらに、

$$3^6 = 729 > 7 \cdot 10^2$$

$$\therefore 3^{67} = 3 \cdot (3^6)^{11} > 3 \cdot 7^{11} \cdot 10^{22}$$

より、(\*)を示すには、

$$3 \cdot 7^{11} \cdot 10^{22} > 7^8 \cdot 10^{25}$$

つまり、

$$3 \cdot 7^3 > 10^3 \dots\dots (#)$$

を示せば良い。

$$3 \cdot 7^3 = 1029 > 1000$$

より、(#)が成り立つので、 $e^\pi > 21$  は成り立つ。

**解** 2  $3^{67} > 7^8 \cdot 10^{25} \dots\dots (*)$

を示せば良い。

$$7^2 = 49 < 50 = \frac{10^2}{2}$$

$$\therefore 7^8 \cdot 10^{25} < \frac{10^8}{2^4} \cdot 10^{25} = \frac{10^{33}}{2^4}$$

より、(\*)を示すには、

$$3^{67} > \frac{10^{33}}{2^4} \Leftrightarrow 2^4 \cdot 3^{67} > 10^{33}$$

つまり、

$$4\log_{10}2 + 67\log_{10}3 > 33 \dots\dots (%)$$

を示せば良い。

$$2^{10} = 1024 > 10^3 \text{ より } 10\log_{10}2 > 3$$

$$3^4 = 81 > 2^3 \cdot 10 \text{ より } 4\log_{10}3 > 3\log_{10}2 + 1$$

$$\therefore \log_{10}2 > 0.3, \log_{10}3 > 0.475$$

となるから、

$$4\log_{10}2 + 67\log_{10}3 > 33.025 > 33$$

であり、(%)が成り立つ。よって、 $e^\pi > 21$  は成り立つ。

\*

\*

集中講義～数値の評価～

次に，“Ⅱ）：多項式による評価”を行う。

$e^\pi$  を、 $y=e^x$  上の点  $(\pi, e^\pi)$  の  $y$  座標と考え、直線を利用して評価しよう。

**解 3**  $y=e^x$  のグラフ  $C$  は下に凸であるから、 $(3, e^3)$  における  $C$  の接線

$$y=e^3x-2e^3$$

との上下関係から、

$$e^x \geq e^3x-2e^3$$

が成り立つ (等号は  $x=3$  でのみ成り立つ)。

$x=\pi$  を代入して、

$$e^\pi > e^3(\pi-2) > (2.7)^3(1.1) = 21.6513 > 21$$

が成り立つ。

\* \* \*

理論的な工夫のおかげで、計算上の工夫はほぼ不要となった。**解 3** の議論を精密化すると、『平均値の定理』を用いた論証になる。

**解 4**  $e^x$  で平均値の定理より、

$$\frac{e^\pi - e^3}{\pi - 3} = e^c$$

となる  $c$  ( $3 < c < \pi$ ) が存在し、

$$\frac{e^\pi - e^3}{\pi - 3} > e^3$$

$$\Leftrightarrow e^\pi - e^3 > e^3(\pi - 3)$$

$$\therefore e^\pi > e^3(\pi - 2) > (2.7)^3(3.1 - 2) = 21.6513$$

$$(\because e > 2.7, \pi > 3.1)$$

が成り立つ。

**注** この場合、上からの評価もできる：

$$\frac{e^\pi - e^3}{\pi - 3} < e^\pi \Leftrightarrow e^\pi - e^3 < e^\pi(\pi - 3)$$

$$\therefore e^\pi < \frac{e^3}{4 - \pi} < \frac{(2.72)^3}{4 - 3.15} = 23.67488$$

$$(\because e < 2.72, \pi < 3.15)$$

これが“真の1次近似”である。

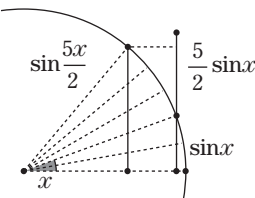
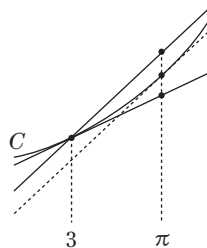
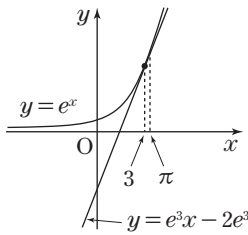
ちなみに、 $e^\pi \approx 23.14$  である。

**問題 3** “半角と5倍角”では苦しい。“Ⅱ)”の考え方により、十分小さい  $x$  で

$$\sin x \approx x$$

である ( $y=x$  は  $\sin x$  の原点における接線)。

$\alpha$  はかなり小さい角度であるから、



$$\sin \frac{5\alpha}{2} \approx \frac{5\alpha}{2} \approx \frac{5}{2} \sin \alpha = \frac{5}{2000} < \frac{3\sqrt{3}}{2000}$$

と考えられる。これを精密化した不等式を証明する。

**解**  $\sin \frac{5x}{2} < \frac{5}{2} \sin x \quad \left(0 < x < \frac{\pi}{2}\right)$

を示す。

$$f(x) = \frac{5}{2} \sin x - \sin \frac{5x}{2} \quad \left(0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}\right)$$

とおくと、

$$f'(x) = \frac{5}{2} \cos x - \frac{5}{2} \cos \frac{5x}{2}$$

$$= 5 \sin \frac{7x}{4} \sin \frac{3x}{4} \geq 0 \quad (\because \text{“和→積”公式})$$

である (等号は  $x=0$  でのみ成り立つ)。ゆえに、 $f(x)$  は単調増加であり、 $f(0)=0$  であるから、

$$f(x) > 0 \quad \therefore \sin \frac{5x}{2} < \frac{5}{2} \sin x \quad \left(0 < x < \frac{\pi}{2}\right)$$

である。よって、

$$\sin \frac{5\alpha}{2} < \frac{5}{2} \sin \alpha = \frac{5}{2000} < \frac{3\sqrt{3}}{2000}$$

が成り立つ。

**問題 4**  $\pi$  をどう見るかによって様々な方法がある。

**解 1** “単位円に内接する正  $n$  角形の周の長さの半分”を  $L_n$  とおく ( $n \geq 3$ ) と、

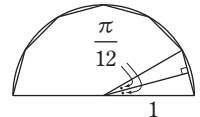
$$L_n = \frac{1}{2} \cdot n \cdot 2 \sin \frac{\pi}{n} = n \sin \frac{\pi}{n}$$

であり、常に  $L_n < \pi$  である。

$L_{12}$  を考えて、以下を得る：

$$\begin{aligned} \pi &> 12 \sin \frac{\pi}{12} \\ &= 12 \left( \sin \frac{\pi}{4} \cos \frac{\pi}{6} - \cos \frac{\pi}{4} \sin \frac{\pi}{6} \right) \\ &= 12 \cdot \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4} = 3\sqrt{2}(\sqrt{3} - 1) \\ &> 3 \cdot 1.4 \cdot 0.73 = 3.066 \end{aligned}$$

**注**  $\{L_n\}$  の極限は  $\pi$  である。



**解 2**  $\sin x < x$  ( $x > 0$ ) …………… (\*)

を示す。そのために、

$$f(x) = x - \sin x \quad (x \geq 0)$$

とおく。すると、

$$f'(x) = 1 - \cos x \geq 0$$

より、 $f(x)$  は単調増加で、 $f(0)=0$  より、

$$f(x) \geq 0 \quad (x \geq 0) \quad (\text{等号は } x=0 \text{ でのみ成立})$$

が成り立つ。よって、(\*) が示され、これにより、

集中講義～数値の評価～

$$\sin \frac{\pi}{12} < \frac{\pi}{12} \quad \therefore \quad \pi > 12 \cdot \frac{\sqrt{6}-\sqrt{2}}{4} > 3.066$$

が成り立つ (解 1 と同じ評価)。

注 3 次式を用いて上からの評価が可能である：

$$x - \frac{1}{6}x^3 < \sin x \quad (x > 0) \quad \dots\dots (\#)$$

を示そう。そのために、

$$g(x) = \sin x - x + \frac{1}{6}x^3 \quad (x \geq 0)$$

とおく。すると、

$$g'(x) = \cos x - 1 + \frac{1}{2}x^2,$$

$$g''(x) = -\sin x + x = f(x) > 0 \quad (x > 0)$$

から、 $g'(x)$  は単調増加で、 $g'(0) = 0$  より、

$$g'(x) > 0 \quad (x > 0)$$

が成り立つ。 $g(x)$  は単調増加で、 $g(0) = 0$  より、

$$g(x) \geq 0 \quad (x \geq 0) \quad (\text{等号は } x=0 \text{ でのみ成立})$$

であり、 $(\#)$  が成り立つ。 $x = \frac{\pi}{6}$  として、

$$\frac{\pi}{6} - \frac{1}{6} \cdot \left(\frac{\pi}{6}\right)^3 < \sin \frac{\pi}{6} = \frac{1}{2}$$

$$\therefore \quad \pi < 6 \left\{ \frac{1}{2} + \frac{1}{6} \cdot \left(\frac{\pi}{6}\right)^3 \right\} = 3 + \left(\frac{\pi}{6}\right)^3$$

となる。ここで、単位円と外接正方形の周の長さを比較して、 $\pi < 4$  であるから、

$$\pi < 3 + \left(\frac{4}{6}\right)^3 < 3.3$$

となる。さらに、 $\pi < 3.3$  を代入して、

$$\pi < 3 + \left(\frac{3.3}{6}\right)^3 < 3.167$$

となる (これを繰り返しても近似には限界があり、収束する値は、 $x = 3 + \left(\frac{x}{6}\right)^3$  の解 ( $\approx 3.1438$ ) である)。

\* \* \*

解 1, 2 の考え方は順に “Ⅲ”, “Ⅱ” である。最後に、「2006 年広島大」を参考にした解答を挙げる。

解 3  $\pi > \frac{8-\sqrt{3}}{2} (= 3.13\dots\dots)$

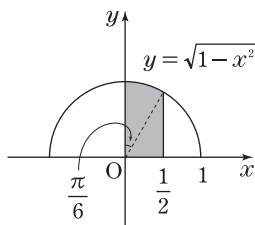
を示せば十分である。

まず、 $O$  を中心とする単位円の第 1 象限の部分と、

$x$  軸,  $y$  軸, 直線  $x = \frac{1}{2}$  で

囲まれる部分の面積  $S$  は

$$S = \frac{\pi}{12} + \frac{\sqrt{3}}{8}$$



である。また、 $(0, 1)$  が頂点で、点  $\left(\frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2}\right)$  を通る放物

線  $C: y = 1 - (4 - 2\sqrt{3})x^2$  と  $x$  軸,  $y$  軸, 直線  $x = \frac{1}{2}$  で

囲まれる部分の面積  $T$  は

$$\begin{aligned} T &= \int_0^{\frac{1}{2}} \{1 - (4 - 2\sqrt{3})x^2\} dx = \left[ x - \frac{4 - 2\sqrt{3}}{3} x^3 \right]_0^{\frac{1}{2}} \\ &= \frac{1}{3} + \frac{\sqrt{3}}{12} \end{aligned}$$

である。

次に、放物線  $C$  の  $(0, 1)$  と  $\left(\frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2}\right)$  の間の部分が、

単位円より下にあること、つまり、

$$1 - (4 - 2\sqrt{3})x^2 \leq \sqrt{1 - x^2} \quad \left(0 \leq x \leq \frac{1}{2}\right)$$

が成り立つことを示す。

両辺正より、2 乗の差をとると、

$$\begin{aligned} &(\sqrt{1-x^2})^2 - (1 - (4 - 2\sqrt{3})x^2)^2 \\ &= (1 - x^2) - (1 - 2(4 - 2\sqrt{3})x^2 + (28 - 16\sqrt{3})x^4) \\ &= (7 - 4\sqrt{3})(1 - 4x^2)x^2 \\ &\geq 0 \quad \left(\because 0 \leq x \leq \frac{1}{2}, 4\sqrt{3} < 7\right) \end{aligned}$$

となるので、成り立つ。

上下関係から、 $S > T$  となるので、

$$\frac{\pi}{12} + \frac{\sqrt{3}}{8} > \frac{1}{3} + \frac{\sqrt{3}}{12}$$

$$\therefore \quad \pi > \frac{8 - \sqrt{3}}{2} > 3.13$$

が成り立つ。以上で示された。

\* \* \*

最後に、面積を用いて、上から評価してみよう。

放物線  $y = 1 - \frac{1}{2}x^2$  は、頂点が  $(0, 1)$  であり、

$$\left(1 - \frac{1}{2}x^2\right) - (\sqrt{1-x^2})^2 = \frac{1}{4}x^4 \geq 0$$

より、単位円よりも上にある。

$y = 1 - \frac{1}{2}x^2$  と  $x$  軸,  $y$  軸, 直線  $x = \frac{1}{2}$  で囲まれる部分の面積  $U$  は

$$U = \int_0^{\frac{1}{2}} \left(1 - \frac{1}{2}x^2\right) dx = \left[x - \frac{1}{6}x^3\right]_0^{\frac{1}{2}} = \frac{23}{48}$$

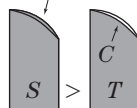
である。 $S < U$  より、

$$\frac{\pi}{12} + \frac{\sqrt{3}}{8} < \frac{23}{48}$$

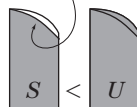
$$\therefore \quad \pi < \frac{23 - 6\sqrt{3}}{4} < 3.152$$

と、上から評価できる。

単位円



単位円



(よした のおお, 予備校講師)